国際教育推進委員会だより

令和６年 12 月 11 日 発行：札幌市立高等学校・特別支援学校国際教育推進委員会

【はじめに】

令和６年 11 月９日（土）、市立札幌大通高等学校を会場に、令和６年度サークルザワールドが開催されました。市立高校７校・中等教育学校１校から 42 名の生徒、25 名の札幌市教育委員会の ALT の参加と担当教員を含め、80 名ほどの参加人数となりました。 CTW（サークルザワールド）の目的である「生徒が ALT などとともに他言語・多文化に親しみ、発表な どの活動を通して、多様な価値観を理解し尊重する態度とともに、自ら発信する能力を育成する。」の実現に向けて、今年度も 8 個の異文化交流ワークショップ（WS)」が企画され、参加生徒の外国語を使った異文化交流・自己発信の機会をより一層広げる場となりました。 例年国際教育推進委員より統括及び各部門リーダーを中心に準備を進めていましたが、今年度は市立開成中等教育学校の西村里史副校長及び市立新川高等学校の牧野弘幸教頭を中心に、対面会議（3 回)、Classroom、公務支援システムのメッセージを活用しながら各校の国際教育推進委員と連絡・調整を重ね、準備を進めてきました。また、ALT はワークショップの用意と運営をとても熱心にしてくれました。 次年度も、札幌市立高校の特色ある学校づくり、魅力ある取組として、一層の充実が図られるように、 多くの市立高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒・教職員のご協力を得ながら開催したいと考えています。

【オープニング】

CTW は、国際教育推進委員会事務局の桑島校長（啓北商業高校）の挨拶で始まり、その後、参加者はいくつかのグループに分かれ、アイスブレイクゲームを行いました。互いに誕生日を訊きあって誕生日順に並ぶ Birthday Chain や、出されたお題を身振り手振りで相手に伝える Gesture Game を行い、お互いに緊張をほぐし、大いに盛りあがった中で今年の CTW が開幕しました。今年度の司会進行は、開成中等教育学校の佐々木仁瑚さん・髙橋瑠々花さん（5 年）が担当してくれました。また、このお二人以外にも、同校の山下杏奈さん・佐藤煌将さん（5 年)、白石和歌子さん・細野凛人さん・星陽太さん（４年)、陣内友子さん・萬谷いちるさん（３年）の７名が自主的に企画運営に携わり、司会の二人と一緒に、何回もミーティングをして準備を重ね、リハーサルを行ったうえで本番に臨んでくれました。入念な準備と当日の盛り上げ、本当にありがとうございました。

【異文化交流ワークショップ】

札幌市教育委員会の ALT がワークショップを企画し、出身国だけではなく、自分が体験した（自分が興味や関連のある）他の国々の文化、音楽、生活様式などを紹介する異国文化理解に係る WS が、今年度は８つの講座で行われました。今年度行われた WS は、前半に①ゴン・フー・茶について②オーストラリアの先住民族アート作成③カラーカードと友情ブレスレット作りの中から１講座、後半に①オーストラリアのスラングと動物について②フィリピンの伝統ストリートゲーム体験③アメリカの賠償要求カードゲーム④カナダの象徴としてのメープルリーフについて⑤トルコ文化についての中から１講座の合計２講座を体験してらいました。「英語で人と話すことに自信がついた」「ただ受け身の授業ではなく、自分達で体験しながら楽しく学ぶことができたので、良かったです。」「オーストラリアに行きたいと思っていたので、オーストラリアのスラングをネイティブの人に実際に教えて貰えることが嬉しかった。」「はじめてやったけど楽しめた！英語もわかる単語が増えていて成長を感じられてよかった！」など、どの WS も盛り上がりました。ＷＳ中、ALT は分かりやすい英語で話を盛り上げており、和やかな雰囲気の中、生徒たちは異文化に触れながらも気軽に沢山の英語を話すことが出来、ALT や生徒同士の交流を深めることができました。

【クロージング】

参加者がそれぞれのワークショップから体育館に戻り、クロージングを行いました。司会の進行のもと、参加してくれた何人かの生徒に英語で感想を訊き、このイベントの中で印象に残ったこと・特に楽しかったことなどを自分の言葉で全体に共有してくれました。今回の CTW を通じて新たに友達ができた生徒も数多くいたようで、とても名残惜しい雰囲気の中、今年度の CTW は閉幕しました。

【終わりに】

生徒たちのアンケートを集約してみると、満足度が非常に高く、「ALT の先生方の人数が多く、みなさんがフレンドリーだったので自然と英語を話す機会も増えて楽しかったです。」「日本人の友達も出来たし、いつもの授業じゃ今回みたいに外国の方と話せる機会なんてほぼ作れないし、今までで 1 番深く外国の方と関われてすごく楽しかったです。」「緊張していたが、ＡＬＴの先生方がたくさん話しかけて下さり、こんな表現の仕方があるのだなと勉強になったしまた、開成中等の生徒さんの英語力に圧倒されました。もっと英語の話す力をつけなければならないなと改めて感じました。」「話すこと、聞くことどっちも実力不足であまり思うようにたくさん話せなかったので、もっと書くことだけじゃなく話すことの勉強もしていこうと思いました。」などの声があり、ALT との異文化交流のみでなく、同じ市立高校生同士の交流、英語の学習方法を見つけるなど、参加してくれた生徒たちは、自分と異なる文化的背景をもつ ALT の方々や他の札幌市立高校に通う同世代たちと「共通語としての英語」を用いてたくさんコミュニケーションをとる貴重な経験をしたことと思います。

また来年年実施に向けて「生徒側からのワークショップをやってみたい」などの前向きな意見や提案もあり、今年度のサークルザワールドも市立高校の生徒にとって大変良い学びの場となったことが読み取れました。

今後、来年度の実施に向けて、ALT 及び国際理解教育推進員からの反省を生かし、実施時期、案内方法、運営方針などを検討し、生徒に更により良いものとなるように、次年度につなげていく予定です。